

政策追い風で好決算を継続。中東情勢による影響下で同社の調達力・供給力が際立ち、代替需要による事業機会拡大へ

サマリー

■ 現場発泡ウレタン断熱施工国内トップシェアの高成長企業

日本アクア（以下「同社」という）は、「人と地球に優しい住環境を創ることで社会に貢献」という経営理念のもと、断熱・防水技術を通じてエネルギー効率の向上と持続可能な社会の実現に貢献する事業を展開している東証プライム市場に上場する企業である。現場発泡ウレタン断熱施工においては国内トップシェアを有しており、戸建部門、建築物部門、防水部門を3本の柱として事業を展開。2013年の上場以来、決算は連続増収を記録中の高成長企業である。

■ 2026/12期Q1 決算概要

2026/12期Q1の売上高は7,710百万円（前年同期比2.8%増）、営業利益は543百万円（同3.3%増）となり、増収増益を確保した。一方、支払利息や長期前払費用償却の増加により、経常利益は521百万円（同1.6%減）、四半期純利益は341百万円（同4.9%減）となった。

売上高は、主力の戸建部門では、高断熱・高気密提案や気密測定サービスの拡大により3,907百万円（同6.5%増）と好調に推移した。防水部門も工場改修案件などの伸長により212百万円（同33.4%増）となった。一方、建築物部門は大型案件減少の影響から2,171百万円（同8.1%減）となったが、データセンターや商業施設案件の受注は堅調に推移した。

■ 2026/12期通期業績予想

2026/12期通期会社計画は、売上高37,000百万円（前期比9.9%増）、営業利益2,900百万円（同4.5%増）、経常利益2,910百万円（同4.1%増）、当期純利益1,972百万円（同4.1%増）を据え置いている。Q1は売上高・営業利益ともに計画超過で推移しており、順調なスタートとなった。

今後も省エネ基準強化を背景とした高断熱需要の拡大が追い風となる見通しである。加えて、データセンターやコールドチェーン向け需要拡大も中長期的な成長要因となる見込みだ。また、中東情勢悪化による原料供給不安が高まる中、指定業者変更やボード断熱から現場発泡ウレタン断熱への仕様変更に関する引き合いが大幅に増加している。この結果、大きな事業機会を見据えている模様である。

なお、SIRでは今後取材後にフォローアップレポートを発行する予定である。

百万円、%、円	売上高	YoY	営業利益	YoY	経常利益	YoY	当期利益	YoY	EPS	BPS
2023/12期	28,342	10.4%	2,882	23.7%	2,917	23.6%	2,004	29.4%	63.83	32.00
2024/12期	30,265	6.8%	2,575	-10.6%	2,604	-10.7%	1,839	-8.2%	58.55	34.00
2025/12期	33,670	11.3%	2,774	7.7%	2,794	7.3%	1,895	3.1%	59.42	35.00
2026/12期（会予）	37,000	9.9%	2,900	4.5%	2,910	4.1%	1,972	4.1%	61.84	35.00
2025/12期Q1	7,501	19.6%	526	18.3%	529	16.8%	359	18.8%	11.25	
2026/12期Q1	7,710	2.8%	543	3.3%	521	-1.6%	341	-4.9%	10.60	

出所：決算発表資料よりSIR作成

注：SIRでの財務データ処理は短信規定と異なるため記載数字は会社資料と相違することがある。

Q1 Flash



客員アナリスト 中西哲
research@sessapartners.co.jp



本レポートは当該企業からの委託を受けてSESSAパートナーズが作成しました。詳しくは巻末のディスクレマーをご覧ください。